

令和3年度

社会福祉法人 富山市社会福祉協議会 事業報告

少子高齢化や人口減少の進行とともに、家族形態の変容や地域のつながりの希薄化によるコミュニティの脆弱化により、生活困窮、孤独死、虐待など地域からの孤立を起因とする様々な生活課題が現れ、その問題が多様化、深刻化しています。

国では、これまで地域共生社会の実現に向けて様々な取り組みを進めてきましたが、複雑化、複合化したニーズに対応するため、令和2年度より「相談支援」、「参加支援」、「地域づくりに向けた支援」を一体的に実施する「重層的支援体制整備事業」が施行され、富山市においても本年度作成された実施計画にもとづき、令和4年度から本格実施されます。本会もこの計画づくりから参画するとともに、今後、事業の実施に向けて市と連携していきます。

また一方で依然として、新型コロナウイルスの感染拡大は、人々の日常生活や社会経済活動に大きな影響を及ぼしており、倒産、解雇による失業者の増加やこれまで貧困とは無縁であった世帯への貧困の拡大、また、経済的な苦境や孤立による若者や女性の自殺者の増加などが大きな社会問題として顕在化してきています。

本会においては、今年度も事業の規模縮小や中止を余儀なくされましたが、創意工夫と感染防止に努めながら令和2年度から令和6年度までの5年間を計画期間とする「第3次地域福祉活動計画」に基づき、地域福祉事業に取り組むとともに、休業や失業された方への支援として「緊急小口資金特例貸付」「総合支援資金特例貸付」「住居確保給付金の支給」を行い、多くの方の生活の維持・立て直しを経済的に支援しました。

新たな取り組みとして、これまでの福祉後見サポート事業に法人後見業務だけでなく、とやま福祉後見サポートセンターを中核機関として位置づけ、申立て手続き支援、受任者調整会議、成年後見推進協議会の開催などや市民後見人の育成、成年後見制度の利用促進に努めました。また、地域食堂（子ども食堂を含む）を運営する団体等に対して、運営に係る費用の助成を行うとともに、情報交換会を年2回実施し、地域食堂の活動状況や課題の把握に努めました。

さらに、ホームページやフェイスブックに加え、ボランティアセンター公式LINEを新たに開設し、講座の案内やボランティアの募集などを行いました。

また、経営改善に関する取り組みとしては、組織のスリム化による経費節減や事務事業・職員配置の見直しを行い効率的で安定的な法人運営に努めました。

令和4年6月

社会福祉法人富山市社会福祉協議会

会長 高城 繁